

はじめに

本書は水産タイムズ社発刊の新聞「冷食タイムス」に連載した記事に加筆・修正等を加え、再構成したものである。副題に『冷蔵倉庫を「あるく、みる、きく」2』と付けたのは、2009年、当社が発刊した『冷蔵倉庫を「あるく、みる、きく」』の続編という意味である。

本書では書名通り、「首都圏の食を支える」冷蔵倉庫を一堂に紹介した、他に類をみない書籍と自負している。冷蔵倉庫に焦点をあてた書籍がほとんどないのは、この業界にスポットが当たることがいかに少ないかを物語っている。

冷蔵倉庫は社会を支えるインフラであり、食品流通において極めて重要な役割を果たしている。日本の低温物流品質の高さを、本書を通じて世間に広く伝えることができれば幸いに思う。

掲載各社には取材で大変お世話になった。改めて深く感謝の意を伝えたい。なお文中の肩書や数字は一部を除き取材時のままとした。どうかご了承承願したい。

2017年7月

目次

はじめに

第1章 正統派！ 冷蔵倉庫業者の拠点

13

五十嵐冷蔵 東扇島LSS（神奈川県）

流通型進出への本格派自動倉庫

14

第一倉庫冷蔵 岩槻長宮冷凍物流センター（埼玉県）

大地震に強い次世代型冷蔵倉庫

17

東京豊海冷蔵 豊海物流センター（東京都）

きめ細かな顧客サービス

21

東京豊海冷蔵 船橋物流センター（千葉県）

アンモニア冷媒への切替の草分け

24

辻野 船橋物流センター（千葉県）

加工場で商品の最終仕上げ、ニーズ高まる	27
東洋水産 東扇島第2冷蔵庫（神奈川県）	
効率アップへ画期的な提案行う	31
ニュー浜屋冷蔵 船橋冷蔵庫（千葉県）	
再保管で同業他社も頼る低温拠点	34
二葉 大黒第二冷凍物流センター（神奈川県）	
大黒ふ頭地区屈指の設備能力誇る	37
二葉 東扇島冷凍物流センター（神奈川県）	
高度な温度管理求める乳製品に特化	41
横浜冷凍 伊勢原物流センター（神奈川県）	
ヨコレイ圏央道構想の要として	45
横浜冷凍 加須物流センター（埼玉県）	
圏央の中核として独自の光彩放つ	49
横浜冷凍 加須第二物流センター（埼玉県）	
太陽光発電をいち早く設置	53
横浜冷凍 鶴ヶ島物流センター（神奈川県）	
活気ある圏央エリア支える拠点	56

五十嵐冷蔵 東扇島LSS（神奈川県）  
流通型進出への本格派自動倉庫



大手ファストフードの物流拠点

1922年設立の同社は、東京、神奈川、埼玉の1都2県に計10カ所の物流センター（京浜第一物流センターは東京団地冷蔵の建て替えのため閉鎖中）を集中している。五十嵐康之社長は長年にわたって東京冷蔵倉庫協会の会長を務め、リーダーシップを発揮し続けた業界の重鎮である。

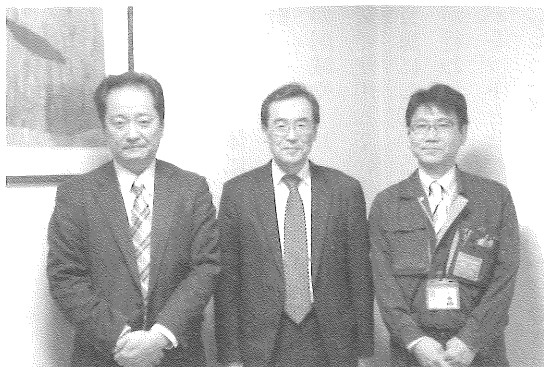
首都圏だけでなく、全国の主要都市に連携冷蔵庫と配送網があり、同社独自の物流ネットワークを構築しているが、首都圏中心部での圧倒的な存在感から「東京の五十嵐」、「首都圏の五冷」といったイメージが定着している。

1997年、川崎市の東扇島に新設した東扇島ロジステイクスサービスステーション（東扇島LSS）によって、それまで保管業務を主体にしてきた同社が、

仕分けや配送業務を含めた流通型にも事業の幅を広げるようになった。「ちょうど業界内で『3PL』、『低温一貫物流』が叫ばれた頃。五十嵐社長のトップダウンで、新たな物流形態に積極的に対応していくことになった」と、片岡齊取締役副社長は当時を振り返る。

東京と横浜に挟まれた東扇島のアクセスの良さは、今さら記す必要はない。この地に、ドックシェルター21基と、700坪を超える広々とした荷捌場を備え、自動倉庫を主体とした、多アイテム・多頻度稼働が可能な、本格的な流通型倉庫が誕生したことは、100年近くに及ぶ同社の長い歴史の中でも、大きな飛躍の節目となった。

収容能力は3万2816t。超低温（マイナス50度C）、冷凍（マイナス23度C）、冷蔵（0度C）、定温（プラス15度C）、常温（借り倉庫）と多温度帯の保管に対応するほか、食品加工室、賃貸事務室など、流通型として必要とされるあらゆる機能を有している。大手ファストフードの物流拠点になっているため、



左から倉井秀之前所長、片岡齊取締役副社長、西川英児所長